

医療最前線 — 脳腫瘍治療に対する新たな取り組み —

脳神経外科 助教 山下 真治

私たち脳神経外科では脳、中枢神経にまつわる外科的処置が必要な総ての疾患を対象とし、日々診療に携わっています。脳腫瘍、脳血管障害、脊髄疾患、頭部外傷、機能外科、小児脳神経外科とその範囲は多岐に渡ります。当施設では特に脳腫瘍の診療に力を入れており、宮崎県内の悪性脳腫瘍に関してはほぼ全ての患者さんの治療を担当しています。

成人の脳腫瘍の中で最も頻度の高い脳腫瘍の一つに「膠芽腫」と呼ばれるものがあります。非常に悪性度の高い腫瘍で、手術、放射線療法、化学療法を組み合わせてもその余命は12～14か月前後であり、この数字はここ20年以上の間の医学の進歩にも関わらず変わっていないのが現状です。

しかしこの状況に一石を投じる可能性のある抗癌剤が開発され2006年9月より我が国でも使用が認可されました。「テモゾロマイド」という薬がそれに当たります。一石を投じると言いましたが、腫瘍が消えてなくなる訳ではありません。2005年に発表された論文で放射線単独治療群において12.1カ月であった生存期間の中央値が、放射線とテモゾロマイドを併用した治療群にて14.6カ月に延長したという結果です。しかしながら従来の抗癌剤と比較すると飛躍的な数字と言えます。また、この薬は内服薬であり投与が簡単なことと、従来の抗癌剤に見られた強い副作用が無

いことも優れた特徴と言えます。

膠芽腫の腫瘍細胞の中にMGMTという遺伝子があります。この遺伝子は抗癌剤の効果を消してしまう働きをするということで知られていました。同じく2005年に発表された別の論文にてMGMTという遺伝子のプロモーターの部分にメチル化がある膠芽腫をもつ患者さんの方が生命予後がよいことが判りました。メチル化がある膠芽腫に、放射線治療とテモゾロマイドを併用した治療をすると、全生存期間の中央値は21.7ヶ月であったとのことでした。

この報告に基づき、当施設で治療を行った膠芽腫の患者さんの腫瘍組織に関するMGMT遺伝子のメチル化に関する解析を行いました。全30症例における増悪しなかった期間に関する評価では、メチル化のある膠芽腫をもつ患者さんの方が増悪しない期間が延長する傾向が確認されました。

これまで指標の無い中で行ってきた治療と比較すると、これら腫瘍組織に関する解析を元にした治療戦略は画期的方法と言えます。当施設では患者さんに十分な説明を行い、プライバシーの保護に十分留意しながらこれらの情報を実際の治療に役立てて行きます。なおこの技術は厚生労働省の定める「先進医療」のひとつであり、当施設はその承認を得ています。

脳神経外科病棟の紹介

6階東病棟

副看護師長 緒方 美和子 谷山 薫

脳神経外科の病棟は、ベッド数24床で6階の東側にあります。入院される患者さんのほとんどは、手術、検査、脳腫瘍手術後の化学療法・放射線療法を受けられる方です。脳神経外科専門医の医師が治療計画を話し合い、患者さんや家族の希望を取り入れ治療を行っています。

主な病気は、脳血管障害、脳腫瘍、慢性硬膜下血腫、頸椎症、腰椎症などです。症状としては、記憶障害や認知障害、運動麻痺、感覚障害などが多くみられます。そのため、看護師は常に患者さんの安全・安楽を考えながら、日常生活がスムーズに送れるよう援助を行なっています。リハビリテーションを必要とする患者さんに対しては、今後のQOL（生活の質）や予後を考え、患者さんやご家族と話し合いながらその人らしい生活が送れるような看護を行っています。



手術後は出来るだけ早く回復されるよう早い時期から車椅子に乗って過ごして頂くようにしています。

手術や急患の多い病棟ですが、ゆっくりと患者さんに関わる時間を大切にしています。



今後も患者さんやご家族の方に「脳神経外科病棟に入院して良かった」と思ってもらえるような看護が提供できるように、スタッフ一同、日々自己研鑽しながら努力していきます。

新しくなった手術部の概要

手術部副部長 指宿 昌一郎

【手術室数の増加と床面積の拡大】

本院再整備事業の一環として、平成19年度に地上3階建ての新中央診療棟が建築されました。その最上階に、新手術部が移転整備され、平成20年1月から運用が開始されました。旧手術部の最大の相違点は、手術室数と手術台数を8室10台から12室13台に増やしたことで、一部屋あたりの床面積を平均およそ40平方メートルから50平方メートルに拡大したことです。

本院手術部の年間手術件数は、昭和52年の開業以来増加の一途をたどり、特に平成13年度以降は、毎年5～10%の対前年度増加率を示しています(図1)。手術室数を増やした結果、同時稼働させる手術台数を9台から10台に増やすことが可能になりました。さらに曜日別診療科割り当ての見直しを行い、より円

滑な手術部運営を実現しています。近い将来に、年間手術件数は、5000件を越すものと予想されます。

【安全性と利便性の向上】

近年は、レーザーや超音波などを応用した手術機器、あるいは内視鏡を用いる低侵襲手術が、多様な手術に広く応用されるようになりました。技術的進歩は、手術の質を向上させますが、手術中に使用する機器類が増加し、手術室内は手狭になります。また、配線や配管が床面に多数引き回され、事故発生の危険性が高まります。新しい手術室では、床面積の拡大と、天井吊り下げ式配線・配管システムの導入により、それらの問題点に対応しています(写真1)。

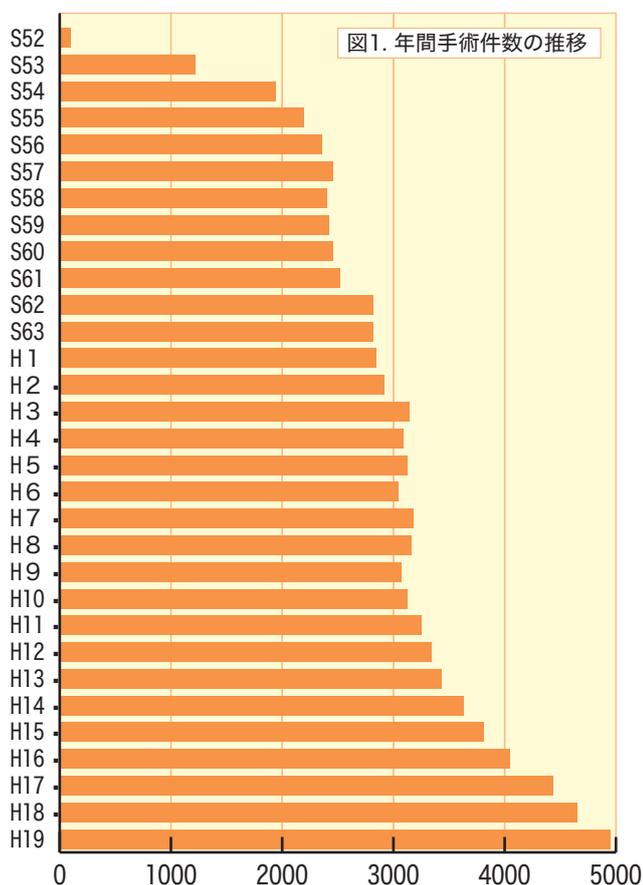


写真1 天井吊り下げ式機器の拡充

手術に関連する合併症に、手術部位感染症があります。手術部位感染症を予防する対策の一環として、清潔な環境で手術を行う必要があります。現代の手術室空調は、高性能フィルタ(HEPA)で塵埃を取り除いた空気を天井から手術台に向けて吹き降ろし、汚れた空気を室外に溢れ出させて、空気清浄度を維持

する仕組みです。手術台とその周辺の空間は、一般的な屋外の空気と比較して、塵埃量が1/100～1/1,000になるよう、管理されています。新手術室では、室内の空気清浄度が高いエリアを意識しやすくするために、床面の色を2色に分けてあります(写真2)。



写真2 床面の色調区分

ボランティア紹介

外来看護師長 柚木崎 智子

フェイスマッサージ

米川恵美子さん



平成19年から患者さんのフェイシャルマッサージのボランティア活動をしていただいているのは、米川恵美子さんです。ボランティアの活動開始当初は、外来患者さんの診療手続きのお手伝いをして頂いておりましたが、フェイシャルマッサージの資格を生かして、少しでも入院中の患者さんの憩いになればとマッサージを始められました。

女性にとって、お顔の手入れは肌を美しくすることはもちろん、心身ともにリラックスし、豊かな気持ちになれます。米川さんは、毎回、5～6名の患者さんにマッサージを施してくださり辛い入院生活を少しでも安らげるようにとの思いが手から伝わり、患者さんには大変好評を博しています。患者さんが気持ちよく眠っていらっしゃる様子がとても嬉しいとのこと。

米川さん、いつもありがとうございます。

花壇の手入れ

〇さん



病院1階東病棟の南側には、花壇があります。その手入れのボランティア活動をして頂いているのが、〇さんです。活動をはじめられ丁度1年が経ちましたが、休日の空いた時間を利用し、病棟看護師長と一緒に、時には患者さんの応援をもらいながら花植えや花壇の手入れを行っています。

冬の風の強い日や、暑い夏の盛りでの作業は大変ですが、少しでも患者さんの和みになればと頑張っ頂いております。

〇さん、いつもありがとうございます。

ふれあい看護体験 2008

本院では7月31日、宮崎県下の高校生を対象に「ふれあい看護体験2008」を実施し、22名が参加しました。

オリエンテーションで、高崎眞弓病院長から「病院にはいろいろな職種の方が働いており患者さんを支えている。今日はいろいろな職種とふれあい、将来を決める参考にしてほしい。将来はぜひ医療の現場で頑張ってもらいたい」と話があり、その後、高校生らはそれぞれの病棟に移動し、担当の看護師と共に食事の配膳や入浴の手助けなど様々な看護業務を体験しました。

体験終了後の閉会式では、中城妙子看護部長兼副病院長が「看護師の仕事は患者さんに当たり前のことをしても『ありがとう』と感謝されるととてもやりがいのある仕事です。将来はぜひ看護師を目指して頑張ってもらいたい。」と高校生らにエールを送りました。

体験を終えた高校生からは「看護師のみなさんが患者さんのお世話をしているところを実際に見て、看護師という職業に改めて魅力を感じた。将来、看護師になることを目指し頑張っていきたい。」などの感想が寄せられました。



看護師から説明を受けている様子



医療費自動精算機のご案内

本院では、平成18年5月より3台の自動精算機を導入し、「待ち時間が短くなった。」とご好評をいただいております。

今回、この自動精算機の使用方法について改めてご案内いたします。

自動精算機の使用法

1. 診察券を自動精算機に入れる
2. 金額を確認し、現金またはカードを入れる
3. おつり、領収書、診察券を受け取って終了

現在、自動精算機を利用できるのは外来診療費に限られておりますが、入院診療費にも対応予定です。



本院の理念

良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献し、患者さんに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さん中心の最適な医療の実践
2. 地域の要望にこたえる医療の実践
3. 先端医療の開発と提供
4. 人間性豊かな医療人の育成
5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備

患者さんの権利

～本院は患者さんの権利を守ります～

- 誰でも良質な医療を公平に受けることができます。
- 診療の内容などについて、あらかじめ十分な情報と説明を受け、理解した後、同意あるいは拒否を選択する権利があります。
- 診療録に記録された自分の診療内容について、本院の規則に沿って、情報の提供を受ける事ができます。
- 診療内容その他についてあなたの情報は保護されます。
- 患者さんの尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。

編集事務

宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携推進センター

〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原5200 電話(0985)85-9165